

政策研究大学院大学長の業務執行状況の評価について (2023年度)

【業務執行状況の評価】

政策研究大学院大学長・大田弘子氏は、2022年9月1日、本学教員から初めて学長に就任した。

大田学長は、本学創設時からの目的である「政策及び政策の革新にかかわる研究と教育を通して、我が国及び世界の民主的統治の発展と高度化に貢献すること」を踏まえつつ、長年の本学での経験から、本学の現状に対する深い理解と鋭い問題意識を持ち、学長として優れたリーダーシップを発揮し、強い意志とスピード感を持って問題の解決に取り組んでいる。

具体的には、今年度、本学が有するリソースを最大限に生かせる体制づくりを目指し、職場環境の改善や大学運営にかかるルールの整備、新たなコースの設置をはじめとする教育内容や政策研究院のあり方の見直し、情報セキュリティ体制の抜本的な強化などに鋭意取り組んできており、適正かつ順調に業務を執行してきたと高く評価する。

【今後期待すること】

来年度以降も引き続き、優れたリーダーシップを発揮し、職員の負担や様々なステークホルダーの視点にも配慮しながら、スピード感のある大学運営改善や、ガバナンス強化に取り組まれることを今後一層期待する。

特に、本学の強みを生かしたカリキュラム改革やデジタル化による業務改善（DX）、研修制度の強化といった喫緊の課題に対する集中的な取り組みを期待する。

また、来年度中の策定が目指される本学の将来ビジョンにも期待したい。

【確認経過】

学長選考・監察会議に学長を招いて実施したヒアリング（2024年3月26日）を踏まえ、本年度の評価を行った。